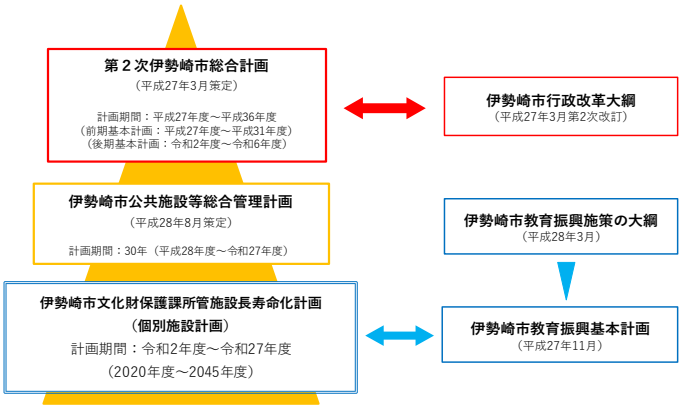
伊勢崎市文化財保護課所管施設長寿命化計画（個別施設計画）概要版

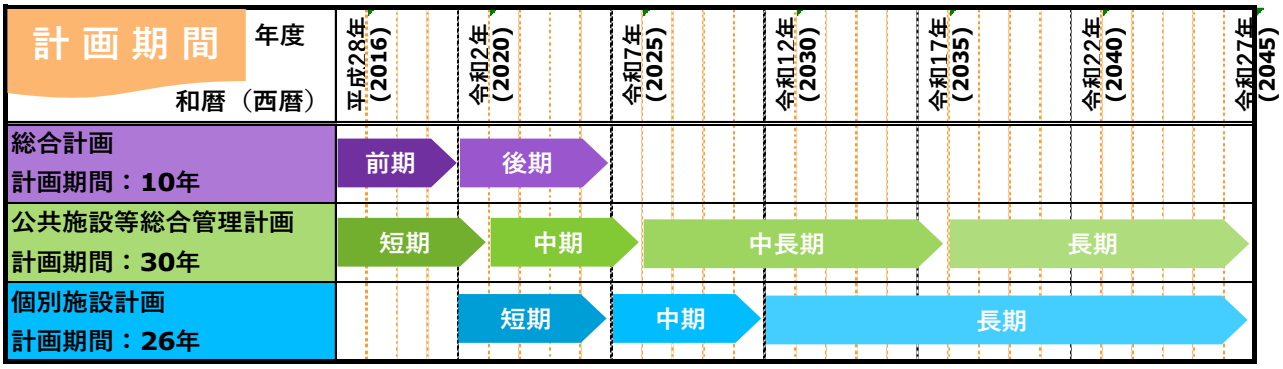
◇文化財所管施設長寿命化計画の背景と目的

文化財保護課所管施設は、公共施設等総合管理計画にもとづき、文化財資料の保管と展示環境の維持・向上を第一に考え、中長期的な維持管理や改修等に係る更新コストの縮減と平準化、教育環境の質的改善も考慮しながら適正に改修等を実施することを目的として策定し、本計画に関する取組を推進することにより、適正な文化財資料の保管と展示環境の実現を目指します。



◇計画期間

計画期間は、令和２年度（2020 年度）から令和 27 年度（2045 年）までの 26 年間とします。



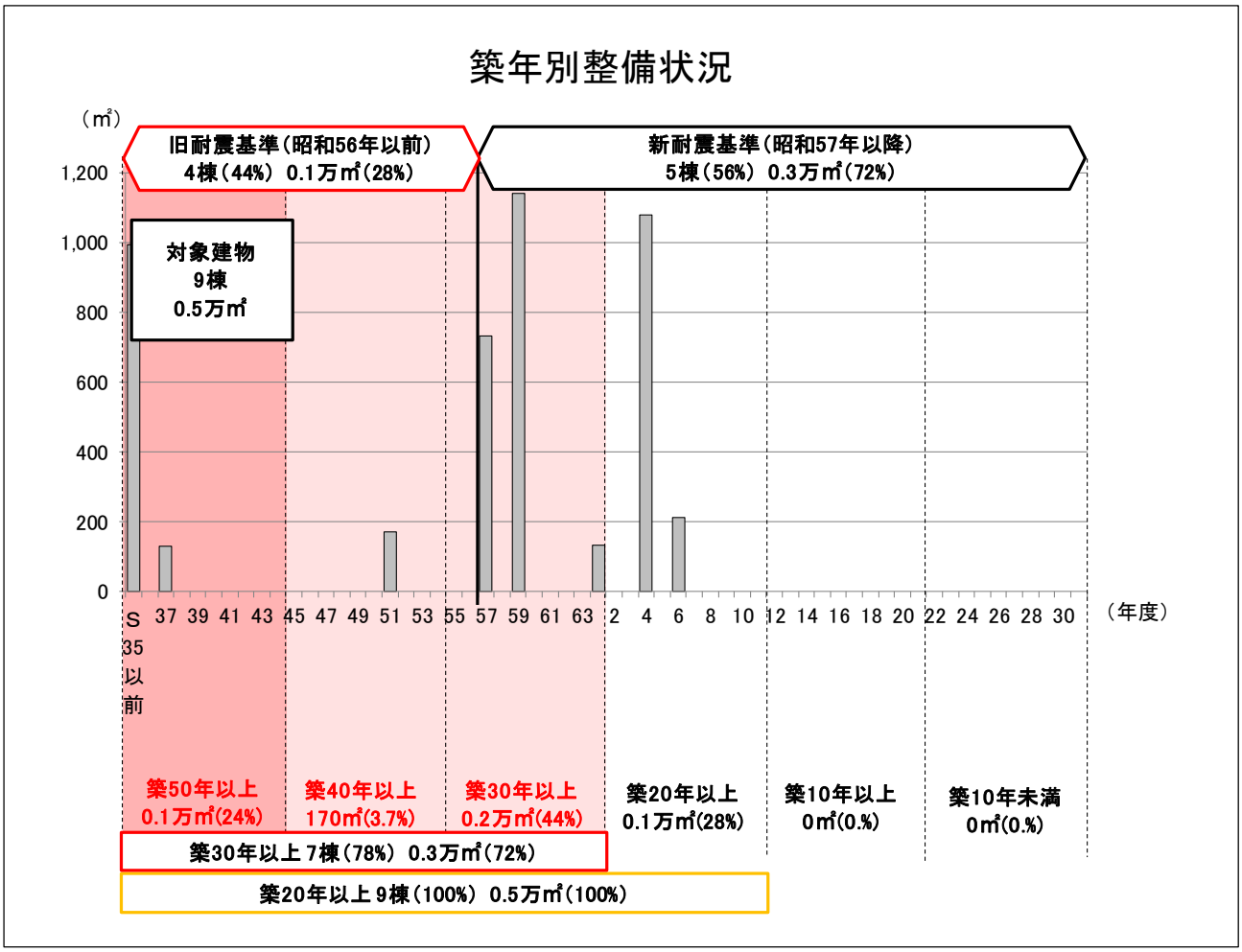
◇計画対象施設

事務所兼展示施設が赤堀歴史民俗資料館と旧境島小学校の２施設、文化財資料保管施設があずま文化財収蔵庫、境文化財収蔵庫、境文化財整理室、文化財保護課倉庫、あずま文化財第三収蔵庫の５施設、計７施設、９棟を対象とします。

施設名称	建物用途	所在地 延床面積（㎡）	建築年度 西暦	建築年度 和暦	構造	階数
あずま文化財収蔵庫		伊勢崎市田部井町三丁目2090				
	収蔵庫	211	1994	H6	S	2
境文化財収蔵庫		伊勢崎市境323-1				
	倉庫	345	1954	S29	RC	2
境文化財整理室		伊勢崎市境下武士389-1				
	倉庫	132	1989	H元	S	1
赤堀歴史民俗資料館		伊勢崎市西久保町二丁目98				
	本館	1,140	1984	S59	RC	2
文化財保護課倉庫		伊勢崎市曲輪町24-36				
	倉庫1	167	1959	S34	W	1
	倉庫2	130	1962	S37	RC	1
旧境島小学校		伊勢崎市境島村1968-40				
	旧校舎（案内所）	1,080	1992	H4	RC	2
	体育館	732	1982	S57	S	1
あずま文化財第三収蔵庫		伊勢崎市東町2657-2				
	作業所	170	1976	S51	W	1

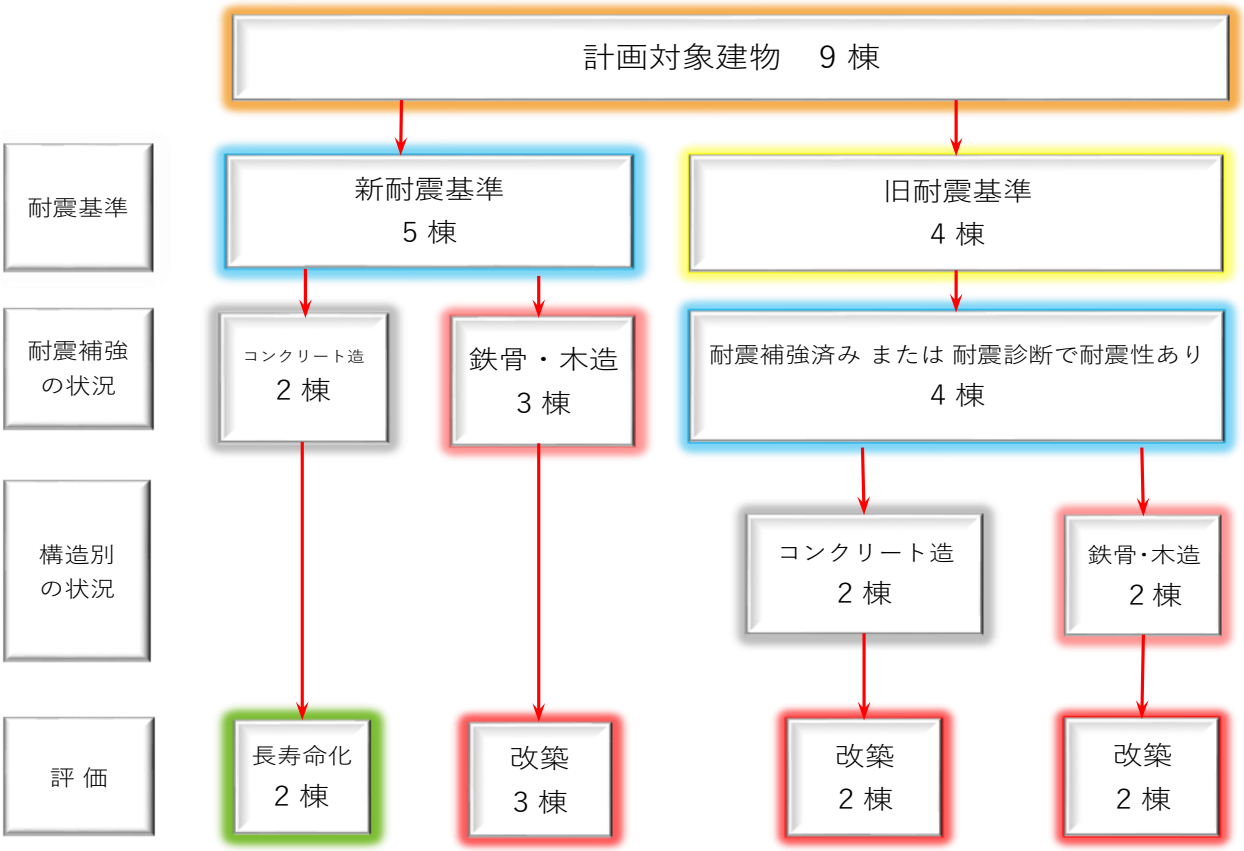
◇文化財保護課所管施設の状況

文化財保護課所管施設は、延べ床面積で見ると、建築後 50 年以上経過した建物が 24%、建築後 40～49 年経過が 3.7%、30～39 年経過が 44%で、30 年以上経過した建物が全体の 71.7%を占めている状況です。耐震化が完了していない建物もあり、老朽化が進んでおり、外壁の劣化による落下の危険や屋上防水の劣化による雨漏り、内装や建具の痛みによる機能面のマイナス要因等が今後、施設管理に支障をきたすことのないよう、改修等を計画的に実施していく必要があります。令和 2 年度（2020 年度）時点で築年数 30 年以上の施設が 72%あり、今後 20 年間で改築対象となる築年数 40 年以上の施設も 27.7%と全体の 3 割を占めることになり、築年数 30 年で大規模改修を実施し、60 年で改築する改築中心の施設整備を進めるとした場合、大規模改修を実施するピークはすでに訪れていて、さらに令和 2 年度（2020 年度）以降に、次々に改築時期を迎えることになります。



◇老朽化状況の把握

○構造躯体の健全性の評価フロー



健全度の点数が低い施設が、改修等の優先順位が高いものとなり、国の基準では健全度 40 点未満の建物は、優先的に対策を講じることが望ましいものとされています。

なお、具体的な改修等を計画する際には、健全度の点数だけではなく、公共施設等総合管理計画にもとづき、資料集増量の推移や他課所管の公共施設の状況など、各施設を取り巻く環境を総合的に判断した上で検討するものとします。

○ 事務所兼展示施設（3 棟）

事務所兼展示施設 3 棟中、健全度 60 点以上の建物は 3 棟、率にして 100%でした。

○ 文化財資料保管施設（6 棟）

文化財資料保管施設 6 棟中、健全度 60 点以上の建物は 3 棟、率にして 50%、40 点以上 59 点以下の建物は 3 棟、率にして 50%でした。

■ 健全度一覧

健全度	劣化状況
80点以上	おおむね良好
60点以上80点未満	部分的に劣化等が見られるが、安全上、機能上問題なし
40点以上60点未満	広範囲に劣化等が見られ、安全上、機能上低下している
40点未満	劣化の度合が大きく安全上、機能上問題であるため対応が必要

◇長寿命化の方針を踏まえた施設整備と具体的な取り組み

○　維持管理・整備レベルの設定

①　文化財保護課所管のこれまでの整備内容

これまでの改修の取り組み状況は、屋上・屋根、外壁、内装、設備機器の改修や修繕、設置を劣化の状況や機器の寿命等、必要に応じて随時実施してきましたが、建物の長寿命化を目的とした施設全体の機能を向上させるような改修は実施してきませんでした。

②　長寿命化改修の整備レベルの設定

・　赤堀歴史民俗資料館

40 年目の長寿命化改修において、外壁・屋根・防水等の性能を向上させ、床や内壁、トイレ・照明・空調・防災設備や展示設備・収蔵庫及び燻蒸庫等の設備機器の整備や更新、非構造部材の耐震化、エレベーター等の設置等により展示施設としての機能の向上を行うことで、来場者の増加を図るとともに、市内唯一の博物館施設として情報発信を行う施設としての機能の維持を行います。60 年の中規模改修においては、各部の劣化状況に応じ、選択的に改修個所を特定し、適切なコストにより維持管理を実施します。

・　旧境島小学校（田島弥平旧宅案内所）

旧境島小学校の旧校舎の一部を改修し、田島弥平旧宅案内所として、平成 30 年 9 月より利用を開始している。40 年目の長寿命化改修において外壁・屋根・防水等の性能を向上させ、床や内壁、トイレ・照明・空調等の設備機器の整備や更新、非構造部材の耐震化等により案内所としての機能の維持向上を図ります。また、世界遺産「田島弥平旧宅」への来場者の要望や展示内容の見直し等の変化に合わせ、展示設備の整備や更新を検討いたします。また、60 年の中規模改修においては、各部の劣化の状況に応じ、選択的に改修個所を特定して改修等を実施することで適正なコストによる維持管理を実施していきます。

○　共有化、複合化の検討

「その他の施設」を改修により整備を行う場合、現在文化財保護課で所管するその他の施設は、旧境島小学校の体育館以外、用途を収蔵庫（埋蔵物や民具等）として利用している施設となっています。収蔵庫に保管するものの量は、年々増加するものであり、その施設が減少することはありません。そのため、改築を行う際には、施設の延べ床面積の増大もしくは、収蔵効率を上げた施設の改築が望まれます。なお、コストの削減及びその後の維持管理の削減を図るために、施設を集約し、統合したものを改築することを検討していきます。

また、市の所管施設にて、その用途を終え、機能を失った施設があれば、改修工事等により収蔵庫として利用することも考えられます。今後、市の所有する施設の状況も鑑み、収蔵施設の維持管理を検討していきます。

○　上記取り組みによるコストの削減状況

従来と同様の取り組みの場合、40 年間で総額 17 億円　年平均　0.43 億円/年
長寿命化による場合、　　40 年間で総額 11 億円　年平均　0.28 億円/年
収蔵庫を集約した場合、　　40 年間で総額　９億円　年平均　0.22 億円/年